



今日のトピック **堅調続く中国株式市場（2019年4月）**
政策期待から底堅く推移しよう

【中国株式市場の推移】

| 中国株式指数 | 基準日 | 騰落率 (%) | | | |
|------------|-----------|---------|------|------|------|
| | 3月29日 | 1か月 | 3か月 | 6か月 | 1年 |
| MSCIチャイナ指数 | 84.01 | 2.4 | 18.0 | 5.3 | ▲8.0 |
| 中国本土市場 | | | | | |
| 上海総合指数 | 3,090.76 | 5.1 | 23.9 | 9.5 | ▲2.5 |
| 深セン総合指数 | 1,695.14 | 9.6 | 33.7 | 17.6 | ▲8.6 |
| 香港市場 | | | | | |
| H株指数 | 11,379.62 | 0.1 | 12.4 | 3.3 | ▲5.2 |
| レッドチップ指数 | 4,679.15 | 5.0 | 12.2 | 5.2 | 6.1 |

(注) データは2019年3月29日基準。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

(ポイント) 【上海総合指数とMSCIチャイナ指数】



(注1) データは2018年3月29日～2019年3月29日。
(注2) 2018年3月29日を100として指数化。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント1 3月の中国株は続伸

- 3月の中国株式市場は続伸しました。5日から開催された全国人民代表大会（全人代）で発表された、大規模減税やインフラ投資拡大などの景気対策が好感されました。また、米中貿易協議の進展期待に加え、李克強首相による金融緩和拡大を示唆する発言なども好感されました。さらに、米連邦準備制度理事会（FRB）が利上げを見送る見通しを示したことで、グローバルなリスクオン（選好）が強まり、新興国への資金流入期待が高まったことも支えとなったとみられます。

ポイント2 財政政策は見かけより景気支援型

- 中国政府は全人代で2019年の財政赤字の目標をGDP比▲2.8%に設定しました。これは、2018年の同▲2.6%から▲0.2%ポイントの拡大にとどまるものの、歳出予算額は2018年の歳出実績額比+6.0%に設定されており、高い伸びとなっています。全人代で承認される財政赤字には特別基金や過去の剰余金などによる歳入も含まれており、これら特殊要因を除くと、2019年の実質上の財政赤字対GDP比率は▲4.3%へ拡大する内容となっています。つまり財政政策は見かけよりも景気支援型といえます。

今後の展開 政策期待から底堅く推移しよう

- 全人代は、景気対策の拡張余地を改めて認識させるものでした。このため株式市場は、一段の景気減速があっても政策期待から底堅く推移するとみられます。引き続き米中貿易協議の帰趨はリスク要因ですが、米中双方とも決着に向けた妥協余地を探っている模様であり、リスクの度合いは低下したと思われます。また、企業業績は下方修正が続いているものの、3か月移動平均の前月比でみた修正率は2019年1月を底に軽微になってきていることから最悪期を脱したとみられ、今後の回復が期待されます。

* 三井住友アセットマネジメントと大和住銀投信投資顧問は4月1日に合併し、三井住友DSアセットマネジメントになりました。

ここもチェック! 2019年3月22日 中国が推進する『デレバレッジ』の影響と今後
2019年3月19日 中国『全人代』は安定成長を目指し、閉幕

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。